

## 令和4年度 第3回下野市社会教育委員会議 議事録

審議会等名 令和4年度 第3回下野市社会教育委員会議  
日 時 令和5年2月9日（木）午前10時00分から12時00分まで  
会 場 石橋公民館 2階会議室4  
出席者 五月女洪委員長、花澤公久副委員長、秋山貴子委員、石田節男委員、青木ムツミ委員、大塩宗里委員、水田あけみ委員、ジヴニーかおり委員、菅井貞雄委員、小島恒夫委員、石川知子委員、増淵晴美委員

【欠席委員】小林勉委員

事務局 生涯学習文化課 浅香浩幸課長、近藤隆博主幹、大塚隆邦主査、本橋優花主事

公開・非公開の別 (  公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 )

傍聴人 なし

報道機関 なし

議事録（概要）作成年月日 令和5年2月20日（月）

### 【協議事項等】

1. 開会
2. 委員長あいさつ

（五月女委員長）おはようございます。お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。早いものでいつの間にか立春となり梅もちらほら咲き出した。本日の会場である石橋公民館には、16mmフィルム映写機が展示してあったが、これを使って子どもたちに色々な映画を見せたなという思い出があり、懐かしいなと思って見ていた。歳のせいか、昔の良さが年々薄れているように感じる。例えば、昔は初午、今年は2月5日であるが、この時期にしもつかれを作って食べたが、この頃食べてないなとしみじみ思った。また、子どもたちとラジオ体操もやった。それぞれ忙しい日々を過ごしていると思うが、地域とのつながり無くなってきており、特に、コロナ禍の3年間で、地域行事が全くなってきている。そのような中、社会教育をどのように進めていくのか、課題がたくさんある。皆様の知恵をお借りして進めていきたい。

### 3. 議題

（浅香課長）これより議事の進行は、社会教育委員会議規則第3条第1項に基づき、委員長にお願いする。

#### （1）教育委員会への提言について

（五月女委員長）事務局より説明を求める。

（事務局）資料1、2に基づき説明。

（五月女委員長）教育委員会への提言について、前回に続き議論している。持続的な地域コミュニティを支える基盤としての社会教育施設の機能強化について、デジタル社会への対応や地域と学校の連携についても含めて、今までの話し合いの中でも議論や整理がされてきたかと思う。そして、今回の事務局資料では、公民館や図書館の利用者の年齢層の推

移などグラフを使って説明があった。委員の皆さんから質問や意見はあるか。

- (水田委員) 資料2の自主サークル数の推移について、南河内東公民館の自主サークル数が増えているとのことであるが、要因は何であると考えられるか。
- (石川委員) 南河内東公民館は、今年度、空調が故障していたかと思う。併せて、自主サークル数の増加が、公民館講座から派生したものであるかどうかについても伺いたい。
- (事務局) 南河内東公民館の自主サークル数が増えている要因ははっきりとは分析できていない。また、東公民館の自主サークル数が公民館講座から派生したかどうかの数值は、今は持ち合わせていない。なお、資料に掲載したグラフは令和4年度が最新の状況となっているが、直近では、新築した石橋公民館へのサークル移籍の影響もあり、サークル数は減少している。
- (石川委員) 公民館講座から自主サークルへ発展していくためには、公民館講座の質、お金を払ってでも続けていきたいと思えるかどうかにかかっていると思う。
- (五月女委員長) 公民館講座の内容について、お金を払ってでも続けたいと思うような、魅力ある講座を開設していくことが、高齢化とともに利用者が減少していく中で、重要であるとの意見であったと思う。
- (石田委員) 私は前回欠席したが、前回は公民館に関する議論がなされたようである。公民館運営審議会(公運審)の代表として、一言述べさせていただきたい。令和2年度に、第二次公民館振興計画の策定について、教育委員会から社会教育委員会へ諮問され、答申した際には、公運審は社会教育委員会から指示を受けて、計画案を上程した。図書館基本計画案もそうであるが、報告した内容と、てにをは以外はほとんど修正されなかった。建前としては、社会教育委員会が策定した計画であることを、委員の皆様には十分に理解いただきたいと思います。また、令和4年度は、第二次公民館振興計画に基づく施策や事業を初めて評価する年度であることも理解いただきたいと思います。
- (五月女委員長) 第二次公民館振興計画の策定経緯や策定直後の時期であることを踏まえると、今回の社会教育委員会での議論の進め方はいかがなものかという意見であったかと思う。
- (菅井委員) 私も前回欠席したので詳細はわからないが、そうは言っても、社会教育施設の現状を認識してもらって、さらに取り入れられるものは取り入れていくという姿勢が大切ではないかと思う。
- (石田委員) 今年度社会教育委員のメンバーが変わったこともあるので、改めて公民館振興計画に関して十分な認識を持っていただき、第二次公民館振興計画を土台とした議論としていただきたいと思います。配付資料に書かれている内容は、公運審でも事業評価をし、次年度の事業に反映させるよう十分検討し議論されている。そのあたりを理解いただきたいと思います。
- (五月女委員長) 社会教育委員会での公民館振興計画の策定について審議した際には、基本的な事項について体系化を考えて議論したと思う。講座や審議会については、社会教育委員会としてはタッチしなかったという現状があるかと思う。前回の会議での意見としては、公民館講座が体系化されていないという意見のほか、社会教育委員としての色々な意

見が出されたということである。

(石田委員) 体系化されていないとは思わない。なぜなら、公民館振興計画にも体系図が書かれている。

(増渕委員) 職員は常に振興計画を道しるべとして確認し、それに沿って事業を実施していると思う。一生懸命にやっている。ただし、実施し評価をしてみてこれは、ということもあるかもしれないので、その際は軌道修正をしていくこともあるのではないかと。ここは議論の場であるので、社会教育委員というもう少し離れた立場で協議することはできるのではないかと。

(花澤委員) 各委員の話を聞かせていただき、石田委員のお気持ちもよくわかる。公運審の体系的な計画と、社会教育委員の意見との間で、多少なりともずれ又はもの足りないものがあると感じた。最終的には、社会教育委員と公運審委員の意見のすり合わせの場がなかなかない。まとめる途中のすり合わせの場がないと、どうしても片方の意見になりがちである。そのあたりをきめ細かく対応していけば、今言ったような疑問点は解消するのではないかと。

(五月女委員長) すり合わせの場が必要とのことであるが、事務局としてはどう考えるか。

(事務局) 公民館振興計画、図書館基本計画の策定の際に同様の話があがった。その際は、公運審と社会教育委員会、図書館協議会と社会教育委員会との意見交換の場が必要ではないかと意見があり、合同会議を一度実施した。今回は、来年度にかけて話し合うテーマは社会教育施設の機能強化ということで、公民館と図書館が主なものになってくる。そうすると、まず公民館や図書館の現状を知る必要があり、例えば審議会や協議会の委員と情報交換したり、実際に施設に行ってみることも考えられると感じた。今後の進め方については、来年度は4回会議を予定している。具体案ではないが、例えば、一度公民館や図書館に出向いて話を聞くこともありうると感じた。なお、すり合わせについては、今回は、計画策定ではなく、提言する立場なので、意見をすり合わせる必要は必ずしもないものとする。

(五月女委員長) 社会教育委員会会議で取り上げている主な施設として公民館や図書館があげられたが、もう一つ、スポーツ振興という大事な仕事が3本の柱として重要視されている。しかしながら、スポーツ振興については、社会教育委員が携わっていないという現状がある。本来ならばスポーツ振興も扱うべきではないか。それでは、社会教育施設の機能強化について、意見あるか。

(小島委員) 一市民として一般論として公民館は行かないのではないかと。前向きな方が公民館に行くイメージがある。公民館は頑張られているが、一般にはわかりづらい。20代30代40代は利用しない。さきほどの議論の中では60代、70代が利用しているという。世の中ものすごく時代が変わってきている。社会教育を活用したい。先日出席した石橋中学校の学校運営協議会での学校評価の中で、一番問題なのは家庭教育がうまくいっていないのではないかと議論があった。家庭の中で学ぶ機会が少なく劣化し

ている。大人たちが何をどうしていいかわからないという状況だと思う。継続的な学びができていない。市に限らず日本全体で社会教育がうまくいかなかったのではないか。ヨーロッパだと、30代40代はリカレント教育があるが、日本にはない。それまでは大学を出れば企業で研修があった。保護者たちが迷っているのではないかと思う。迷っている中で、その人たちが社会教育施設に行くことが理想だができていない。継続的な学びができていない。このあたりが社会教育施設の強化につながっていくのではないかと思う。全国的な話ではあると思うが、少なくとも市の中で強化できればと思う。

(大塩委員) 今回私たちは教育委員会へ提言するために集まっている。提言するにあたり、どのような基準にして、何を提言していくのが重要ではないか。前回の会議で意見が出されたが、資料にある「公民館講座が体系化されていない」などは全体意見ではなく、各個人の意見として出されたものであると思う。議論の中で、公民館講座は体系化しているということになれば、それはそれでいいのではないかと思う。資料には生の声そのまま記載されているので、あまり気にしないでよいのではないか。資料2にはテーマ関連した統計が示されているので、そこをもう少し考察を加え、統計から何が見えてくるかを協議していったらいいか。

(五月女委員長) 大塩委員より、今までの議論については個々の意見ということであり、提言するためには、資料を基にして提言してはいいかという意見であった。家庭教育に関して言えば、国としての方針はほとんどなく、平成17年の教育基本法の改正によって家庭教育の記述が初めて記述された。今までは行政機関がタッチするのではなく、個人個人が行うものであるという考えが非常に強くなされていた。今では学校、公民館等で家庭教育学級など取り組まれてきた。一方、30年以上、地域の教育力の低下が問題視されている。社会教育施設の機能強化ということで、生涯学習の観点から提言していけばということである。資料2にある、二つの柱、つまり社会的包摂の実現、地域コミュニティの基盤の構築を見据え、その実現のための公民館、図書館等の社会教育施設の強化ということを話し合っていければと思う。公民館については、20代から50代の利用が少ない。一方、高齢者の利用は多いが60代から70代にシフトしてきている。図書館については、幼児・児童は多いが、13歳から大学生・20代が少なくなっているというデータが示された。

(小島委員) 事務局から出された資料については、これでよいと感じる。ただ、携帯で情報を集めている時代に図書館の利用は中々難しいところがある。YouTubeなど電子媒体への対応が求められる。海外では電子マネーが主流になっている国がすでにある。日本は紙幣が残っていると笑われている。社会活動を実践する「大人の広場」ではラインで情報交換することもしている。集まる場所も必要ではなくなっている。新しいデジタルツールを活用することも大切である。図書館でもデジタル媒体を導入してはどうか。

- (青木委員) 図書館協議会では、電子図書について協議している。購入は予算も絡むことでもあり結論は出ていない。デジタル図書に関しては色々な意見やデータがあり、紙の文字で読んだ方が脳が活性化するというデータがある。成人者はよいかもしいないが、幼児にはあまり必要ないのではないかという考えもある。
- (小島委員) タブレットが生徒たちに配付されたことは革命的だと思う。時代が変わりそういう学びになった。
- (青木委員) 自分でできる子がいいが。図書館にはWi-Fiは入っている。
- (秋山委員) 資料にある提言の目的には、持続的な地域コミュニティを支える基盤としての存在価値を高めるため、とある。地域コミュニティを支える基盤として考えると、どのようなことが必要か、どんなことなら集まりたいと思うのかを考えていくことなのかもしれない。持続的な地域コミュニティを支える基盤とはどのようなことかということ提言に盛り込めればいいのかとは考えている。
- (ジヴニー委員) 資料には、50代の図書館利用が40代や60代と比較して少ないということが示されているが、自分もそのうちの一人だと気づいた。利用しない理由を考えると、行く理由がないということである。調べものはパソコンやスマホでできる。本を読みたいと思っても、図書館に行ってまで本を手にとろうという気持ちにならない。図書館には全くハードルはないにも関わらず、である。社会で生きていくことに精一杯で「図書館」というスペースが自分の生活の中にない。どうしたら行くようになるか考えると、コーヒーを飲みながらゆっくりできる等気軽に足を運べるような空間、居心地の良い空間ならば、時間が空いたから行ってみようかな、ということになると思う。また、必ずしも図書館にデジタル図書を全て導入しなければならないとは絶対に思わない。紙の方が絶対に良いはず。紙と活字は必要。タブレットで子どもに見せることは反対。子どもたちに対しては本と一緒に読んで、共感することが一番大事。調べたい人は自分で調べればよい。図書館には図書館の価値があるわけで、紙の印刷物を手をもって自分で選び中身を見るという価値があると思う。私たちの世代には、図書館が生活の中にないということに反省した。
- (水田委員) 利用者の年齢層について図書館と公民館とでどう違うのか考えた。例えば感情豊かな子どもを育てるために、読み聞かせが必要だと思う。図書館で、孫を連れて読み聞かせをしたいと思うが、今の図書館の雰囲気では、子どもも大人も静かにしなければならないという感じになってしまう。そのような環境では、親が子どもを連れていく雰囲気がない。まずは、図書館の雰囲気づくりが大切ではないか。居心地の良い場所づくりは良い提案かと思う。時間が余ったら図書館に行こうかなということになると思う。また、中学生や高校生は勉強勉強で、図書館での貸出利用は少ないと思う。公民館でも平日に親子連れということは少ない。公民館では中々難しいが、石橋公民館ロビーでは、ちょっと寄ってジュース飲みながら談話したり、打合せの場として使えるようになったり、学習室の利用もあり、雰囲気や場づくりが大切だと思った。居心地

の良い雰囲気づくりは必要だと思う。もう一つ、学校との連携にあたり、例えば、講座について、ミシンボランティアなどの学校が求めている人材と地域から提供する人材を、うまくリンクする講座も考えていくこともあっていいのではないかと。やはり、指導員がどういうふうにやっていくのか、ヒットするかしないか、大きくかかわってくると思う。うまく組み合わせたら、いい方向が見えてくるのではないかと、話をきいていて思いました。

(小島委員) 私は石橋図書館にあまり行かないが、年間約100冊本を買って読んでいる。毎朝トレーニングとして文科省HPなどを読んでいる。なぜ行かないかというと、自分の欲しい本がないから。図書館には文学書はあるがビジネス書がない。また、鮮度が低い。自分のポリシーとして鮮度が大切と思っている。精神健康を保つのに読書は良いと思うが行かない。

(青木委員) 図書館では本の選書や廃棄処分の基準が決まっている。予算の制約はあるが、リクエスト本に対応できる場合もある。指定管理制度を採っている。要望していただければ叶うことがあるかもしれない。

(小島委員) 利用者としては、1日しか待てない。1週間は待てない。自分のグループは、毎週火曜日に自治医大駅前の本屋内のカフェで、コーヒーを飲みながら会議をしている。快適な環境の中で読書している。図書館には行かないという現状を、行きたくなるように改善が必要ではないか。

(菅井委員) 公民館講座に関して、高齢者にとって健康寿命を延ばすためには、よその人と会って話をしたりすることが、認知症予防にもなり、重要だと考える。その意味では、ふれあいサロンも重要。講座や自主サークルで沢山の活動をやってほしいと思う。高齢者しか来ないという議論であるが、利用人数が多いか少ないかということではなく、高齢者向けの講座もしっかり行ってほしい。

(五月女委員長) 公民館講座について、高齢者が今日いく場所、仲間づくりにつながる雰囲気づくりが大切ではないかという意見であった。これまでの議論で、公民館講座の充実、デジタル環境の整備、Wi-Fiなどの充実に関する議論がなされたが、本日の議論では、現役世代の利用促進や他施設との連携に関する意見がなかったように思う。事務局ではどのように進めようと考えているか。

(事務局) 次回の会議の開催は、先進事例研究として想定していた。議論の中で出たが、公運審や図書館協議会委員との意見交換の場とするか、もしくは、本日の続きを議論するか、の3つが現時点では考えられる。

(五月女委員長) 委員から意見はいかがか。

(増淵委員) 先進事例研究とあるのは、どのように進めるのか。

(事務局) 本日までの議論を踏まえたうえで、事務局で先進事例候補を提案していきたいと考えていた。先進事例研究と書いたのは、例えば、那須塩原市立図書館みるるや小美玉市のみの一れ、などを想定していたが、本日の議論を聞いて、先進地視察ではなく、も

う少し議論を深めていただくほうがいいのでは、と感じた。また、来年度は4回の会議を予定している。例えば、本日、若年層や現役世代、他施設の連携の議論に行きつかなかった。事務局で基礎データを事務局で用意させていただき、それらを踏まえて、委員間で議論いただきたい。今後は、事務局で骨格をあてはめ、太くしていくイメージで作業を進め、議論を肉付けしていきたい。このような流れで考えたい。

(五月女委員長) 次回は項目の(3)若年層や現役世代の利用促進、(4)社会教育施設以外の施設との連携・協働について、を中心に話し合いを持ちたいと思うので、委員の皆様よろしくお願ひしたい。他に委員から意見等あるか。

(石川委員) 石橋公民館がオープンしたが、利用者の年代別データはあるか。現役世代はどのような利用をしているか知りたい。

(事務局) 会議室等利用者の年代別のデータはない。学習室やロビー、ラウンジスペースを想定以上に中学生、高校生などが利用している。会議室を借りるわけではないので記録がない。せっかく来館しているのだから、アンケート調査等も今後考えていきたい。

(石田委員) 新しい施設が出来て利用者は喜んでいるが、音を出す団体と出さない団体が隣になった場合、パーティションで仕切っていても隣の部屋に音が結構漏れるので苦労している。また、学習室利用者は、日々増えている。午後8時までの利用とされているが、少し早いのかなど、公運審での議論となると思うが、そのような個人的な感想を持っている。

(小島委員) 快適な環境なら人が集まってくる。老朽化した旧石橋公民館には子どもたちは来たことはなかったと思う。環境を整えば、自然と子どもたちも来るのではないか。快適な環境なら人が集まってくるだろう。

## (2) その他

- ・ 関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会について
- ・ 令和4年度生涯学習文化課主要事業実績報告

(五月女委員長) 事務局より説明を求める。

(事務局) 資料3、4に基づき説明。

(五月女委員長) 協賛について、委員の皆さんで協賛いただけそうな企業等をご存じであれば、事務局へ情報提供をお願いしたい。以上で議事は全て終了した。進行を事務局へお返しする。

## 4. その他

(浅香課長) 石橋公民館施設見学についてであるが、委員によっては何度も見学している方もいることから、一旦解散とする。

(事務局) 次回の委員会日程は、来年度の5月頃を予定している。日程が決まり次第通知させていただく。また、本日の資料の中に、各公民館の自主サークル発表会のチラシ、天平の桜歌会チラシを配付してあるので参考までにご覧いただきたい。

## 5. 閉会〈浅香課長〉

〈事務局による石橋複合施設案内〉